

ろくおん 通信

2020年2月1日発行

発行 日本ライトハウス情報文化センター

録音製作係

発行責任者 竹下 亘

電話 06-6441-1017

FAX 06-6441-1027

http://www.iccb.jp/

No.238

今号の内容

- ◎ 聴いてわかる録音図書をつくるために（第51回）……………1ページ
校正について ～誤読の指摘～
- ◎ 「ウェブスタジオ・なにわ」が新しくなります ……………3ページ
説明会についてのご案内
- ◎ わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第24回） ……………4ページ
編集作業のまとめ

聴いてわかる録音図書をつくるために（第51回）

校正について ～誤読の指摘～

録音製作係 木田陽子

校正で指摘しやすい項目といえば、「誤読」「アクセントの誤り」「背後の雑音」あたりではないでしょうか。まずは「誤読」についてみていきたいと思います。

（このコーナーでは録音直後・デイジー編集前の最初の校正を想定しています。デイジー編集開始後の校正については、「わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説」の記事で扱う予定です。）

「誤読」は、ご存知の通り音訳者が原本の情報とは違う読み方をしていることを指します。たとえば「～でした。」と書いてあるのを「～です。」と読んでいる場合や、原文が「天神橋」であるのに音声は「天満橋」となっている場合などを指します。

漢字の形が似ているせいで、「お札」を「おれい（お礼）」と思い込んで読んでいるようなミスもあるかもしれません。

同じ「行った」という表記でも「図書館に行った。」なら「いった」、「イベントを行った。」と書いてあれば「おこなった」と読めているかをチェックします。

先ほどの「お札」も、「レジでお札を出した。」という文章なら「おさつ」ですし、「神社

でお札をいただいていた。」であれば「おふだ」ですね。

地名も、場所や時代によって違う読み方をすることがあり、注意が必要です。

以前、「愛宕^{あたご}」の表記が出てきたときに「京都の地名だと、同じ字だけど『おたぎぐん（愛宕郡）』って読むんだよね」と教えてもらった時は驚きました。

馴染みがある言葉ほど、本当にその読みで正しいかを確認する必要があるのかもしれない。

原本の内容を正しく伝えるためにも、読み間違いは校正で見つけておく必要があります。どの段階の校正であっても必ず指摘します。

漢字の読み方の場合は国語辞典や漢和辞典で調べますが、最近はインターネットやスマートフォンのアプリでも検索できます。手元に紙の辞書や電子辞書が揃っていなくても、自宅のパソコンを使って調査を進めることが可能になっています。

ネットで検索する場合は、そのホームページの情報が信頼できるかどうかを確認してください。

「誤読」と似ていますが、原本の内容に誤りのある「誤植」というものもあります。そのまま声に出しても意味が通らず利用者が困りそうな場合には、処理方法を考えることもありますが（ろくおん通信 No. 219・No. 233 参照）、基本的には原本通りに読みます。

例えば原本に「情報文化センター北側の道頓堀川」と書かれていたとします。現在の地図で調べると、近くにあるのは「土佐堀川」なのですが、ビル建て替えのため道頓堀川のすぐ近くに仮移転していた時期もあったので、間違いではないということになります。

情報が誤っているから直そう、と簡単に判断するのは危険です。

なお、音訳者は読み間違いを最小限に抑えられるよう、読みの調査や下読み（録音前の練習）をしっかりと行ってから録音に臨んでください。前回取り上げた「修正だらけで前後の音が合っていない図書」にしないためにも、訂正箇所を減らすことが大切です。



「ウェブスタジオ・なにわ」が新しくなります

前号で「ウェブスタジオ・なにわ」の移行に伴う変更点について、簡単に説明いたしました

た。ですが、紙面で伝えられる情報はどうしても限られてきますので、実際に画面をご覧いただきながら変更点や操作方法を説明する機会を設けることにいたしました。

「ウェブスタジオ・なにわ」説明会 日程

- ・2月19日（水）10時30分～12時
- ・2月20日（木）13時30分～15時
- ・2月21日（金）10時30分～12時

いずれも情報文化センター4階・第1会議室で行います。内容は同じですので、どこかにご参加ください。参加申し込みのリストは6階・録音製作係に置いています。

説明会の後、2月25日（火）頃に新しいシステムに切り替える予定です。

切り替え作業が終わった後、自宅でRecdiaを使い音訳・校正（デイジー編集時の校正を含む）をしてくださっているかたは、ご自身のパソコンに新しいRecdiaをインストールしていただく必要があります。

お手数ではございますが、ご協力をお願いいたします。

… … …

★ 下調べ票へのアポストロフィ（'）入力について

英語で「80年代」を示す「80's」などに使われる「'」や「' 」の記号をアポストロフィと呼びます（以下、大きさを比較するために下線を引きます）。

似たような形で、引用文などを示すかっこの一種・シングルクォーテーション「' ～ '」の閉じかっこ「' 」がありますが、パソコン上ではアポストロフィと同じ形の記号として扱われることが多いようです。

この記号、パソコンのキーボードからは SHIFT + 7 と入力すれば表示されます。いろいろなフォント（書体）がありますが、2種類に大別されます。

全角（日本語入力モードの時に入力される形） ' _

半角（英語入力モードなどの時に入力される形） ' _

英単語がよく出てくる図書などでは、英語の読み方を調査した結果を「ウェブスタジオ・なにわ」の下調べ票に記録されることが多いかと思いますが、半角 ' _ を入力すると弾かれてしまい、登録できないことがわかりました（新しい「ウェブスタジオ」では「不正な処理が行われました」というエラーメッセージが出ます）。

もしアポストロフィが使われている言葉を下調べ票に追加される場合は、キーボードを日本語入力にして、全角 ' で入力してください。

なお No. 234 に「ダブルクォーテーションマーク（「 “ 」 ）の入力について」という記事を掲載しました。アポストロフィやシングルクォーテーションマークにも環境依存文字（パソコンやデジ再生ソフトが違ふと表示できない可能性がある文字）が存在しますので、変換して[環境依存]と表示されないものを選択してください。

★ Recdia の校正票が更新されない時は…

デジ編集者からのウェブ校正票が届いた際、「ウェブスタジオ」から自分のパソコンに校正票をダウンロードしたはず。その後 Recdia で校正票を開いてみると、編集者からの校正項目が記入されていない（自分が1回目の校正の修正済み音訳データを送信した時のままになっている）…、という場合に試していただきたいことがあります。

Recdia を閉じた状態であることを確認してから、校正票をダウンロードすることです。

例えば、音訳している図書1枚目のデータを Recdia で開いているときには、1枚目の校正票をダウンロードをしようとしても、内容が書き換わりません。

「ウェブスタジオ」の「校正票一覧」画面と Recdia の「校正票一覧画面」を見比べてみて、校正項目の行数に違いがあるとか、自分がつけたはずの「修正完了」「修正パス」の記号がついていなかったという場合は、いちど Recdia を閉じてからダウンロードを試してみてください。



わかる 使える 広がる！ デジ図書徹底解説（第24回）

デジ図書のしくみを解説するこのコーナー、今回からは校正作業にスポットを当てながら、聞きやすく、使いやすいデジ図書について考えていきたいと思います。

聞きやすく、使いやすいデジ図書を製作するために…

音訳、校正、編集に際しての主なチェックポイントをまとめてみました。こうして並べてみると、たくさんあることに改めて驚かされます。

◆ 録音技術面 （聞き取りやすく安定した音質・音量）

- ① 音質 … こもったり反響したりしていない

- ② 音量 … -10db~-6dbの範囲で、ばらつきがない
- ③ 雑音 … 外部の音、機械操作音、PC内部のノイズ、口中音、ポップノイズ、紙の音など

◆ 音訳技術面 (長時間聞いていても疲れな発声、発音、読み)

- ① 誤読 …………… 単純な誤読、漢字、固有名詞の誤読、熟語や慣用句の誤読 など
- ② 誤植の処理 …… 原則として訂正しない
- ③ アクセント …… 違和感のあるアクセントや文意が変わってしまうアクセントはないか
- ④ 間(ポーズ) … 内容が正しく伝わる、適切な間で読まれているか
- ⑤ 不自然な間はないか? (読みつないだ箇所、はめ込み訂正した箇所など)
- ⑥ 文の区切り方 … 文意が正しく伝わる切り方、立て方で読まれているか?
- ⑦ スピード …………… 聞き取りやすいスピードか、読み急いでいる箇所はないか
- ⑧ 発声、発音 …… 不明瞭な発声、発音はないか、とちり、読み詰まりはないか

◆ 処理技術面 (原本の内容が正しく伝わる処理、聞いてわかる処理)

- ① 枠アナウンス、録音の順序など、決められた形式が守られているか
- ② 活字符号(！・？・傍点など)、「」()などの読み方
- ③ 同音異義語などの漢字の補足
- ④ 図・表・写真の説明や挿入場所
- ⑤ 注の読み方や挿入場所
- ⑥ 引用文の読み方

◆ 編集技術面 (使いやすいデジタイズ図書としての編集がされているか)

階層化(レベル化)、デジタイズ図書凡例(録音図書凡例)、ページチェック、グループチェック、書誌情報、適切な間、フレーズの長さ などです。

校正のポイントは、何回目の校正作業かによって異なります…

◆ 「校正の体制」は、施設・団体の実情、扱う原本の種類などによって様々ですが、当館では概ね次のようになっています。

- ① モニター(ペア録音のパソコン操作担当者)による校正
- ② 第2校正(校正者による校正です。モニター者が付かない録音では第1校正になります)
- ③ デジタイズ編集者による校正(編集作業と並行して校正します。)
- ④ デジタイズ校正(編集者が作成したCDの校正です。)

⑤ 最終チェック者による校正（再編集後作成されたCDの校正です。）

◆ 次回から、このコーナーでは主に③・④について紹介していきます。

校正をする際のポイントは、その校正作業が何回目かによって異なってきます。例えば、編集者による校正が2回目の校正に当たる場合は、③に加えて②の校正も必要となります。

編集者ブラッシュアップコーナー

◆ 利用に困るデイジー図書編集の例

① セクションの最終フレーズが無音（聞き取れないほどわずかな雑音が入っている）

⇒ 利用者が再生した時に、不具合が起こることがあります。

【対策1】 前のフレーズに結合する。雑音の場合は削除する（間が短くなりすぎていないか必ず確認する）。

【対策2】 編集終了後は、必ず各セクションの最後のフレーズを確認する。

② 各セクション第1フレーズ冒頭の無音部分が長い

⇒ 音のない時間が長いと、セクション移動をした時に利用者に不安を感じさせてしまいます（音が聞こえてこない、無音になっているだけで再生が続いているのか、機械が故障して音が出ないのかがわからないため）。

【対策】 冒頭の無音部分は極力短くします。

※ただし画面上は「無音」に見えていても、その直前フレーズ最後の「子音」の場合があります。フレーズを切り取ったときは、必ず連続再生（ショートカットキー **F5**）で前後の音を聞き返しましょう。

③ 目次の各項目（ワンフレーズ化した項目）の冒頭部分の「無音」

⇒ その直前フレーズ最後の「子音」である場合が多いです。

【対策】 「無音部分」を切り取り、前のフレーズ最後に貼り付け

「フレーズ分割」画面の例

フレーズ	長さ	ポーズ	グループ	ページ	マーク	音声ファイル	累計	コメント
1	2.3	0.4						
2	2.2	0.2						
3	2.2	0.2						
4	2.6	0.5						
5	9.8	0.6						
6	12.4	0.4						
7	4.7	0.7						
8	5.7	0.2						
9	9.0	0.6						
10	16.0	0.8						
11	11.4							
12								

フレーズ分割

フレーズの分割位置を選択してください。

す。それから

PLAY(F5) OK キャンセル

フレーズ分割

フレーズの分割位置を選択してください。

PLAY(F5)

↑ 4フレーズ目の波形の画像。
「～あ(り)ま(す)。」の「(す) (無声音)」が、
4フレーズ目にくっついてしまっている。

「す」を切り取り、
3フレーズ目の最後に結合



館からのお知らせ

★ 音訳ボランティア養成講習会（1）受講者募集

これから音訳を始める方向けの講習会です。発声、発音、アクセントなどの基礎練習を中心とした講習会を開講します。音訳ボランティア活動を行う上で必要な心構えや基礎知識を含め、全15回を受講していただきます。詳細は録音製作係（電話：06-6441-1017、メール：rec@iccb.jp）までお問い合わせください。

日 程：4月7日～7月21日（5月5日を除く） 毎週火曜日

13時～14時50分

定 員：15人（先着順）

費 用：7,000円

講 師：安田知博氏、当センター職員

申込締切：3月11日（水）必着

★ 音訳ボランティア養成講習会（3）受講者募集

1年間かけて、パソコンを使った蔵書の製作について学びます。修了後は当館の蔵書製作

を行っていただきます。「音訳ボランティア養成講習会（2）」を修了されているか、音訳に関する基礎的な講習を修了された方、または既に音訳の活動を始めている方が対象です。

こちらの講習会についても、詳しくは録音製作係にお問い合わせください。

日 程：5月16日～2021年3月19日（全30回） 金曜日10時～12時
定 員：15人
費 用：無料
講 師：当センター音訳ボランティア（講習会講師チーム）
申込締切：2月29日（土）必着
事前試験：3月13日（金）

★ 専門音訳講習会：2020年度の開催予定

来年度の専門音訳講習会は、「英語コース」と「小説の読み方コース」を予定しています。「英語」は6月に全6回の講義を開催、全1日の集中講義である「小説の読み方」は7月に行う予定です。詳しい情報は次号に掲載いたします。

★ 「ウェブスタジオ・なにわ」説明会について

「ウェブスタジオ・なにわ」の改修が終わり、ホームページが新しくなります。詳しくは3ページからをご覧ください。

★ 3月26日にフォローアップ講座（校正編）を開催

当館で3冊以上の校正経験がある方を対象にフォローアップ講座を開講します。

日 時：3月26日（木）13時～16時
定 員：10人
申込受付期間：2月13日（木）～3月12日（木）
申 込 方 法：申込書に記入の上、録音製作係までお申し込みください。申込書は係に用意しています。（FAX：06-6441-1027、メール：rec@iccb.jp）

★ 休室のお知らせ

2月11日（火）：建国記念の日

2月22日（土）：24日（月）が天皇誕生日の振替休日のため

3月20日（金）：春分の日

3月27日（金）：ボランティア交流会開催のため

※ 交流会の詳細は「One Book One Life」2月号をご覧ください。

玉水記念館で、皆様のお越しをお待ちしております！